

改正後	改正前												
<p>製材についての検査方法</p> <p><b>1 適用範囲</b> この検査方法は、<u>日本農林規格等に関する法律（昭和 25 年法律第 175 号）第 10 条第 1 項及び同法第 30 条第 1 項の規定による認証を受けた取扱業者及び外国取扱業者が行う製材についての検査方法を規定する。</u></p> <p><b>2 検査の種類</b> <u>検査は、次のいずれかの方法によって行わなければならない。</u></p> <p><b>a) 最終製品における検査</b></p> <p>1) 検査を分けて理化学検査（含水率試験、保存処理試験及び曲げ試験をいう。以下同じ。）及び外面検査（検査であって理化学検査以外のものをいう。以下同じ。）とする。</p> <p>2) 理化学検査は、<u>抽出して行う。</u></p> <p>3) 外面検査は、<u>抽出して行う。ただし、抽出して行うことが検査の能率その他の理由によって適当でないと認められる場合には、各個に行ってもよい。</u></p> <p>4) 検査を抽出して行う場合の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、<u>3 に定めるところによる。</u></p> <p><b>b) 製造工程における検査</b> <u>製造工程における検査は、4 に定めるところによる。</u></p> <p><b>3 最終製品における検査</b></p> <p><b>3.1 第 1 種検査方法</b></p> <p><b>3.1.1 抽出の割合等</b></p> <p><b>a) 理化学検査</b> 品目、樹種及び製造条件が同一と認められ、かつ、<u>同一等級に格付しようとする 20 日以内の製造荷口を検査荷口とし、その抽出の割合及び方法は、JAS 1083-1 の附属書 A の A.1 による。</u></p> <p><b>b) 外面検査</b> a) の検査荷口から無作為に <b>表 1</b> の左欄に掲げる検査荷口の大きさの区分に従い、<u>それぞれ右欄に掲げる試料を抽出する。</u></p> <p style="text-align: center;"><b>表 1－外面検査の抽出数</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">検査荷口の大きさ</th> <th style="text-align: center;">単位 枚(本) 試料の数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">500 以下</td> <td style="text-align: center;">50</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">501 以上 1 200 以下</td> <td style="text-align: center;">80</td> </tr> </tbody> </table>	検査荷口の大きさ	単位 枚(本) 試料の数	500 以下	50	501 以上 1 200 以下	80	<p>製材についての検査方法</p> <p>(新設)</p> <p>1 この検査方法は、<u>製材の検査について適用する。</u></p> <p>(新設)</p> <p>2 検査を分けて理化学検査（含水率試験、保存処理試験及び曲げ試験をいう。以下同じ。）及び外面検査（検査であって理化学検査以外のものをいう。以下同じ。）とする。</p> <p>3 理化学検査は、<u>抽出して行う。</u></p> <p>4 外面検査は、<u>抽出して行う。ただし、抽出して行うことが検査の能率その他の理由により適当でないと認められる場合には、各個に行うことができる。</u></p> <p>5 検査を抽出して行う場合の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、<u>6 から 9 までに定めるところによる。</u></p> <p>(新設)</p> <p>(新設)</p> <p><b>6 第 1 種検査方法</b></p> <p><b>(1) 抽出の割合等</b></p> <p><b>ア 理化学検査</b> 品目、樹種及び製造条件が同一と認められ、かつ、<u>同一等級に格付しようとする 20 日以内の製造荷口を検査荷口とし、その抽出の割合及び方法は、製材の日本農林規格（平成 19 年 8 月 29 日農林水産省告示第 1 0 8 3 号）別記の 1 による。</u></p> <p><b>イ 外面検査</b> ア の検査荷口から無作為に <u>次の表</u> の左欄に掲げる検査荷口の大きさの区分に従い、<u>それぞれ右欄に掲げる試料を抽出する。</u></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">検査荷口の大きさ</th> <th style="text-align: center;">試料の数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">500 枚 (本) 以下</td> <td style="text-align: center;">50 枚 (本)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">501 枚 (本) 以上 1, 200 枚 (本) 以下</td> <td style="text-align: center;">80 枚 (本)</td> </tr> </tbody> </table>	検査荷口の大きさ	試料の数	500 枚 (本) 以下	50 枚 (本)	501 枚 (本) 以上 1, 200 枚 (本) 以下	80 枚 (本)
検査荷口の大きさ	単位 枚(本) 試料の数												
500 以下	50												
501 以上 1 200 以下	80												
検査荷口の大きさ	試料の数												
500 枚 (本) 以下	50 枚 (本)												
501 枚 (本) 以上 1, 200 枚 (本) 以下	80 枚 (本)												

1 201 以上 3 200 以下	125
3 201 以上	200

### 3.1.2 検査に係る格付の基準

#### a) 理化学検査

JAS 1083-1 の 7 及び JAS 1083-4 の 4 に準じて試験を行い、その結果、JAS 1083-1 の附属書 A の A.2 に準じて合格又は不合格を判定する。

#### b) 外面検査

3.1.1 b) の規定によって抽出した試料の単位体ごとに JAS 1083 に基づいて外面検査を行い、その結果、格付しようとする等級の基準に達したものを合格品とし、その合格品の数が、表 2 の左欄に掲げる試料の数の区分に従い、それぞれ右欄に掲げる合格とする数以上であるときは、当該検査荷口のものをもその等級に格付する。

表 2 - 外面検査の合格とする数

試料の数	合格とする数
50	43
80	70
125	111
200	179

### 3.2 第 2 種検査方法への移行

3.1 に定めるところによって検査を行った結果、その検査荷口のもの連続して 5 回合格に格付されたときは、その検査荷口に係る工場の製品については、それ以後の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、3.3 に定めるところによる。

### 3.3 第 2 種検査方法

#### 3.3.1 抽出の割合等

##### a) 理化学検査

3.1.1 a) の規定を準用する。この場合において、3.1.1 a) 中“品目、樹種及び製造条件”とあるのは“3.2 の規定によって検査が 3.3 に定めるところによることとなったもので品目、樹種及び製造条件”と、“20 日分”とあるのは“50 日分”と読み替えるものとする。

##### b) 外面検査

a) の検査荷口から無作為に 80 枚（本）の試料を抽出する。

#### 3.3.2 検査に係る格付の基準

##### a) 理化学検査

3.1.2 a) の規定を準用する。

##### b) 外面検査

3.3.1 b) によって抽出した単位体ごとに JAS 1083 に基づいて外面検査を行い、その結果、格付しようとする等級の基準に達したものを合格品とし、その合格の数が 69 枚（本）以上であるときは、当該検査荷口のものをもその等級に格付する。

1, 201 枚（本）以上	3, 200 枚（本）以下	125 枚（本）
3, 201 枚（本）以上		200 枚（本）

### (2) 検査に係る格付の基準

#### ア 理化学検査

製材の日本農林規格別記の 3 に準じて試験を行い、その結果、同別記の 2 に準じて合格又は不合格を判定する。

#### イ 外面検査

(1) のイの規定により抽出した試料の単位体ごとに製材の日本農林規格に基づいて外面検査を行い、その結果、格付しようとする等級の基準に達したものを合格品とし、その合格品の数が、次の表の左欄に掲げる試料の数の区分に従い、それぞれ右欄に掲げる合格とする数以上であるときは、当該検査荷口のものをもその等級に格付する。

試料の数	合格とする数
50 枚（本）	43 枚（本）
80 枚（本）	70 枚（本）
125 枚（本）	111 枚（本）
200 枚（本）	179 枚（本）

### 7 第 2 種検査方法への移行

6 に定めるところにより検査を行った結果、その検査荷口のもの連続して 5 回合格に格付されたときは、その検査荷口に係る工場の製品については、それ以後の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、8 に定めるところによるものとする。

### 8 第 2 種検査方法

#### (1) 抽出の割合等

##### ア 理化学検査

6 の(1)のアの規定を準用する。この場合において、同ア中「品目、樹種及び製造条件」とあるのは「7 の規定により検査が 8 に定めるところによることとなったもので品目、樹種及び製造条件」と、「20 日分」とあるのは「50 日分」と読み替えるものとする。

##### イ 外面検査

アの検査荷口から無作為に 80 枚（本）の試料を抽出する。

#### (2) 検査に係る格付の基準

##### ア 理化学検査

6 の(2)のアの規定を準用する。

##### イ 外面検査

(1) のイにより抽出した単位体ごとに製材の日本農林規格に基づいて外面検査を行い、その結果、格付しようとする等級の基準に達したものを合格品とし、その合格の数が 69 枚（本）以上であるときは、当該検査荷口のものをもその等級に格付する。

### 3.4 第1種検査方法への移行

3.3に定めるところによって検査を行った結果、その検査荷口のものが1回その格付けしようとする等級に合格されなかったときは、その検査荷口に係る工場の製品については、それ以後の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、3.1に定めるところによる。

## 4 製造工程における検査

### 4.1 抽出の割合等

品目、樹種及び製造条件が同一と認められ、かつ、同一等級に格付けしようとする原則として1日分以内の製造荷口を検査荷口とし、その抽出の割合及び方法は、品質管理内部規程（製材についての取扱業者の認証の技術的基準の2.2.2 d)に規定する内部規程をいう。以下同じ。）に定めるところによる。

### 4.2 検査に係る格付の基準

品質管理内部規程に基づいて検査を行い、その結果、品質管理内部規程に基づく品質管理の基準に達したときは、当該検査荷口の製材を合格に格付する。

### 9 第1種検査方法への移行

8に定めるところにより検査を行った結果、その検査荷口のものが1回その格付けしようとする等級に格付されなかったときは、その検査荷口に係る工場の製品については、それ以後の抽出の割合等及び検査に係る格付の基準は、6に定めるところによるものとする。

(新設)